

# 青少年委員だより

## 子どもたちの笑顔に向き合って

## 第170号



はたちを楽しむつどい

この2年間、環境の変化や地域活動の在り方が問われる中で、青少年委員会としても大きな変化を経験いたしました。

子どもたちの健やかな成長を願い、自分たちが地域でできることは何かを委員一人ひとりが真剣に考え、子どもたちの笑顔に向き合っていました。

各地区での活動や行事への協力、関係諸団体との連携を行い、今期は区立小・中学校PTA会長の皆様との意見交換の場を持つこともでき、さらなる関係強化への一歩を踏み出したものと感じております。様々な研修を行う中で、青少年委員会が地域の中で果たす役割の重要性も改めて実感いたしました。

任期途中で会長代行となり、至らぬ点もありましたが、全委員と協力し前向きに活動を進めてこられたことは私にとっても貴重な経験となりました。

これからも江戸川区の青少年委員会が、子どもたちの未来を支える存在として認知され、皆様と共に活動の場を広げていけることを願っております。

この2年間、青少年委員活動にお寄せくださいましたご厚情に心より感謝申し上げますとともに、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



二年間を振り返って

江戸川区青少年委員会

会長代行 木下 真理子

### 城北ブロック研修会



中央地区部会  
関清孝

令和7年度東京都青少年委員会連合会城北ブロック研修会が、12月7日（日）に幹事区の荒川区にある開成中学校・高等学校で開催されました。

講演会では、開成中学校・高等学校の野水勉校長先生より、青少年育成に必要な地域の力についてのお話があり、子どもには多様性と自立性が重要であることを学びました。講演後はグループに分かれて講演内容を踏まえた活発な意見交換を行いました。

最後の交流会は、2時間があったという間に過ぎ去るほど有意義な交流の場となりました。

### 地域青少年リーダー講習会を応援しています



文責  
葛西南地区部会  
三木 佳代

令和7年度から始まった「地域青少年リーダー講習会」は、区内在住の中学生・高校生を対象に、地域でのリーダーシップや防災・協働の力を育む新たな取り組みです。

本講習は全10回で構成されており、これまでに仲間づくりのグループワークや防災学習、応急処置体験、災害炊事など、実践的な活動が行われています。回を重ねることに受講生同士の交流も深まり、主体的に取り組む姿が見られます。

青少年委員は講習会を見学し、ディスカッションに参加するなど、活動に寄り添いながら応援しています。子どもたちが真剣に考え、仲間と協力して課題に取り組む様子は大変頼もしく、地域の未来を担う力の育ちを実感しています。

### あともがき

この2年間、広報部員一人ひとりが工夫を重ね、協力しながら紙面づくりに取り組んできました。子どもたちの笑顔や思いに寄り添いながら行ってきたさまざまな活動を、多くの皆さまにお届けできるよう、写真や構成にも心を配ってまいりました。今期の広報紙が、私たちの思いを少しでも皆さまに伝えられていれば幸いです。

今後も広報紙を通じて活動の輪がさらに広がっていくことを願っております。

広報部 同

### 江戸川区青少年委員 ホームページ



こちらの二次元コードを読み込んでいただくか、「江戸川区青少年委員」で検索してください。

江戸川区青少年委員 検索

### 青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会  
編集 広報部  
連絡 江戸川区文化共育部  
健全育成課 育成活動支援係  
03(5662)0357

### 地域の子もたちが大集合「学校に泊まろう」を開催



平井小松川地区の6小学校の4年生から6年生までの28名が参加した「学校に泊まろう」が、令和7年11月2日(土)と3日(日)に平井西小学校とその周辺で開催されました。プログラムは、1日目に朝からドラゴンボート乗船体験、平井探検隊、共育プラザ平井での夕食の準備、eスポーツや卓球、ボッチャの体験、キャンプファイヤーを経て、体育館に設置したテントでの就寝となりました。2日目は、起床後に全員でのラジオ体操から始まり、朝食後にはテントを片付け、工作教室ではおもしろ工作研究グループのものづくりミニチュアを参考にお菓子ガチャを作成しました。最後は、わくわくレクリエーション研究グループによる「金持ちじゃんけんゲーム」で盛り上がりました。

文責  
小松川地区部会  
近藤 幹郎

### はたちの手形



令和8年1月12日(月・祝)、「令和8年江戸川区二十歳を祝う会」の会場にて、グリーンパレスを利用する地域団体有志の皆様による「はたちを楽しもう」が開催されました。私たち江戸川区青少年委員会は、「はたちの手形」事業を通じて本式典に協力いたしました。今年度の「はたちの手形」も多くの参加者で賑わいました。当日は各持ち場での積極的な取り組みや、「祝い」の掛け声とともに見せる晴れやかな笑顔が大変印象的で、会場は終始温かく活気に満ちた雰囲気になりました。なお、来年度の式典は別会場での開催が予定されており、新たな環境のもと、より充実した事業となるよう引き続き取り組んでまいります。

文責  
東部地区部会  
南江 広一郎

### 氷上フェスティバル



令和7年12月14日(日)、江戸川区スポーツランドにて「第43回氷上フェスティバル」が開催されました。式典後、フィギュアスケートのエキシビションが行われ、小学生の時にスポーツランドで練習していた、現在アメリカで活躍するプロスケーター関実香さんの演技に魅了されました。私たち青少年委員は、毎年おもしろ工作コーナーを担当しています。今年はバルーンアートとペーパーファンを一緒に作りました。一日を通して、大勢の子どもたちが訪れてくれました。初めて工作した色とりどりの封筒を重ねて作るペーパーファンに、子どもたちの笑顔の花が満開になりました。

文責  
東部地区部会  
相川 美智子

### ウォーキングフェスタえどがわ2025



令和7年11月23日(日)、ウォーキングフェスタえどがわ2025が開催されました。「秋を楽しもう」さわやか健康ウォーキング」をキャッチフレーズとし、下小岩小学校をスタート地点に、新中川の河川敷を歩く3キロ・6キロのコースに、子どもから高齢者まで約1,000名が参加しました。今年度は、小岩地区の青少年委員が運営に協力しました。風の冷たい日でしたが、会場では区内医療団体によるブースやヨガ体験、チアダンスの実演、抽選会などが行われ、参加者は楽しみながら健康づくりに取り組む充実した2日を過ごしました。

文責  
小岩地区部会  
佐藤 美樹

## 2月定例会



中央地区部会  
三浦 圭司

令和8年2月20日(金)の定例会では、区立中学校PTA連合協議会の現役PTA会長と青少年委員との意見交換会を実施しました。

今回の意見交換会は、現役PTA会長と青少年委員が、中学生や学校との関わりについて共有し、地域と学校との連携強化のあり方を探ることを目的として行われました。当日は地区ごとに分かれ、活発な意見交換が行われました。

近年のPTA活動は負担軽減が求められており、その変化への対応のため活動が難しくなっている現状があるとの声がありました。一方で、顔見知りの青少年委員であっても、その具体的な活動内容が十分に周知されていないという課題も共有されました。

地域と学校をつなぐコーディネーターとしての役割をより一層果たしていくため、私たち自身のさらなる努力が必要であるとの意見も出されました。

今回の意見交換は、今後の活動の方向性を考える上で大変有意義な時間となりました。

## 研修旅行



小松川地区部会  
山下 真人

令和8年2月7日(土)から2日間、青少年委員会の研修旅行を実施しました。今回は研修旅行実行委員会において「エネルギーについて考える」をテーマに企画しました。

研修では、「山梨県立リニア見学センター」や「米倉山次世代エネルギーPR施設きらっと」を訪問し、次世代エネルギーや環境への取り組みについて学びました。バス内では「カーボン・マイナス都市の実現を目指して」や「電気や水も大切にしよう」といった江戸川区の関連動画を視聴し、エネルギーの重要性について理解を深めました。さらに、世界遺産である「忍野八海」を雪化粧の中散策し、自然の美しさにも触れることができました。

懇親会ではチーム戦でゲームを行い、終始和やかな雰囲気の中で交流を深め、有意義な研修旅行となりました。

## 11月定例会



中央地区部会  
和田 洋子

令和7年11月22日(土)の定例会は、野外研修でデフリンピック観戦に行きました。

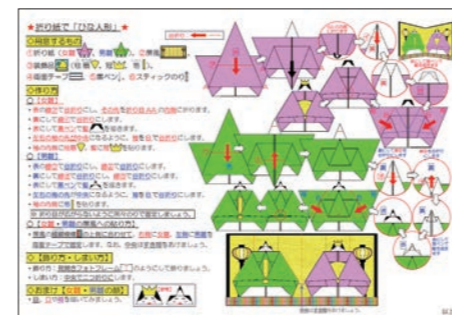
デフリンピックは第二回が1924年にフランス・パリで開催されました。東京2025デフリンピックは100周年の記念すべき大会であり、日本での開催は初めてとなります。

今回は、江戸川区在住の女子バレーボール選手、背番号7の長谷山優美さんの応援に行ってきました。当日はカナダとの準々決勝を観戦しました。結果は3対0で勝利し、その後勝ち進んで見事に金メダルを獲得しました。

事前に手話での応援を学んでいたおかげで、白熱した試合を楽しく観戦することができました。

世界中のデフアスリートの活躍を生で観戦でき、とても良い経験となりました。

## 1月定例会



小岩地区部会  
中川 隆

令和8年1月16日(金)の定例会では、おもしろ工作研究グループによる「折り紙で『ひな人形』作り」を行いました。使用したのは千代紙で、ひな人形の着物の柄を上手く表現していました。

工作体験は、青少年委員として子どもたちに指導することが多く、題材は短時間で達成感を得られるものを選びがちです。しかし、30分以上の時間を使ってじっくりと作り上げる折り紙で「ひな人形」作りは、日頃の手作り工作では味わえない充実感を得ることができました。

# 地域の魅力を伝える「しかもとたんけん隊」

令和7年11月16日(日)、子どもの文化体験研究グループは、地域の伝統文化や産業に親しみ郷土への愛着を育むことを目的に「しかもとたんけん隊」を開催しました。実施にあたっては、2年間にわたり鹿本地区委員会の村山委員長をはじめ地区委員の皆様や地域の皆様と打合せを重ね、地域の施設や農園等を訪問して伝承者の方々のお話を伺いながら、地域の歴史や文化を学び、内容を検討・調整してきました。

当日は鹿骨区民館フラワーホールを拠点に、中乃園、中代農園(亀戸大根)、中代農園(小松菜)を訪問しました。中乃園では、店頭に並ぶ前のポイントセチアなど花卉生産の現場を見学し、生産者の思いや工夫を直接伺いました。亀戸大根の農園では江戸東京野菜である亀戸大根の特徴を学び、ビニールハウス内の見学や大根の洗浄体験を行いました。小松菜農園では、鋤を使った畑づくりや収穫、種まきの体験に加え、植木鉢のデコレーションも行いました。こうした体験に加え、移動の途中には、村山委員長から地域にまつわるお話を伺い、地名の由来や昔の様子を学ぶなど、地域の魅力に触れる充実した2日となりました。子どもたちからは「収穫が楽しかった」「大根を洗う体験ができてうれしかった」などの声が寄せられ、保護者からも高い評価をいただきました。

今後も地域の方々とつながりを大切にしながら、貴重な地域文化を発掘し、それを支える方々と子どもたちをつなぐ活動を続けていきたいと考えています。

文責

小岩地区部会

加藤 直樹



# 平和とSDGsを共に考える研究グループ

毎年3月に行われる共育プラザ7館による「10代の挑戦 EDOGAWA」ではSDGsコーナーが企画運営されています。昨年は、SDGsコーナーがお化け屋敷コーナーの入り口に面していたため、共育プラザ平井の皆さんと協力し、「不気味さ」を保ちながらSDGsを伝える展示を工夫しました。そして、リサイクル素材やリユース衣料を利用した「お化けの衣装展示ショー」を実施しました。共育プラザ各館がそれぞれの素材を使用した衣装を作成し、私たちの研究グループも段ボールペトボトル・牛乳パックを用いた「落ち武者鎧」を出品しました。また、投票様式もペトボトルキャップを使用するなどエコな集計方式を取り入れSDGsのPRにつなげています。

今年の「10代の挑戦 EDOGAWA」は、3月15日(日)に東部区民館で開催されます。SDGsコーナーでは、古着を利用したアート作品や再生紙でつくるうちわづくりを計画しています。コーナー担当の共育プラザ南篠崎の皆さんとともに来場者に楽しみながらSDGsを学ぶ機会を提供したいと考えています。

文責

中央地区部会

斉田 治



# 地域交流研究グループ

令和7年11月30日(日)、青梅市で開催された「集まれおうめつ子2025〜木こりの巻〜」に参加しました。NPO法人青梅りんけんの方々から「森と木のはなし」を聞き、24名の子どもたちが間伐の必要性や山を守る重要性を学びました。森林面積が市の63%を占める一方で、林業を営む人は20名程度と人員不足の現状に、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。作業体験では、子どもたちが倒す木を選び、力いっぱいロープを引くと、静寂な森の中で「メキメキ…」という音が響き、木がゆっくりと倒れる光景は圧巻でした。木々の隙間からわずかな光が差し込み、「これが山を守ることなのだ」と実感できました。

青梅市青少年委員会の岡部会長をはじめ、関係者の皆様にはお世話になり、江戸川区では味わえない山を考える貴重な体験ができました。

文責

小松川地区部会

山下 真人

